

山寺通信 鶏谷山花栄寺だより

今号の記事：

- お盆うちの案内
- ハクビシン禍
- 好信和尚様のご供養に
- 旅行のお誘い
- ペット供養墓の整備進む
- 配線工事おこなう

好信和尚様の御供養に

6月16日は花栄寺25世随応好信大和尚様の正当33回忌でした。法要は一昨年(平成25年)の晋山結制の折に繰り上げて営ませていただきましたが、せつかくの年忌ご命日ですのでご本山で修行僧の朝食(お粥)を布施し追善供養とする計画を立てました。そこで6月16日～17日の日程で護寺会世話人副代表の力石陽一さん、同会計の山田直武さんと三名で大本山永平寺に行ってまいりました。

修行僧は坐禅堂内で儀式に従ってお経を唱えながら朝のお粥をいただきます。本来、坐禅堂は修行僧でなければ入ることが許されない場所です。正式に入室した修行僧だけがそこで坐禅、食事、睡眠をゆるされます。生活の一切が仏さまの行と考えるなら、坐禅堂は修行の根本の場所といってもよいでしょう。布施の功德主は其中を薫り高い香を捧げながら一巡して修行僧の合掌礼拝を受けることができます。それは大変名誉なことで貴重な体験ですが、さらに宗教的な喜びをもたらす行為です。

私たちの修行の根幹は、仏様の行を持してゆくことです。仏様の行とは煩惱に汚れない行いのことです。私たちの日常の生活は、いたるところで欲がまわりついていきます。それが意欲であればよいのですが、ときに制御不能な激流となって私たちを押し流してしまふ。仏の行とは、この欲を調べ、人生に役立つエネルギーにしてゆくことです。それが技術を身に着ける修業とは意味が異なるところです。

修行僧に供養することは、修行道場での生活が運営され修行が滞りなく進むための支援であると同時に、清らかな行の行者＝仏様を生み出すことでもあります。その行者が合掌礼拝して下さるとき、私自身もまた仏の行者として合掌を受けるのです。だ



永平寺参籠の三名

から手足をぶらぶらさせて通り過ぎることはできない。手は合掌し、足取りは決められた道順を通り、良い香りを焚きこみ、心はすがすがしい気持ちでもに仏さまの行持を喜ぶのです。

好信和尚様は、近隣のお寺で行持があるときには食事を用意する「典座(てんぞ)」という係をお勤めになっていたそうです。お米の量を図るのに片手でお米をすくって「これで一人分(約0.6合)だ」といっておられ、そして決して量を間違えなかったと伺います。これもまた、仏様の行を持しておられた好信和尚様の面目躍如でありましょう。

私も家族のごはんを用意することがあります。好信和尚様が典座に立つお姿を思い浮かべながら、同じようにして片手でお米をすくって量を計る昨今です。

ペット供養墓の整備進む

昨年建立したペット供養墓に参道が新設されました。コンクリートで舗装し、手すりも設置いたしました。観音様の近くには色とりどりの花が植えられ、環境が整ってまいりました。



お盆うちのご案内

本堂のざわめき、ともしびに浮かび上がる本尊様、線香の香り、皆でいただくおとき、お墓参り。今年もお盆うちの季節がやってまいりました。昨年同様、法要前に法話の時間を取ります。大勢の参詣をお待ちしております。二日間のうち、ご都合の良い日にお参りください。

- ◆ 期日： 7月11日(土)、12日(日)
- ◆ 時間： 午前10時30分～法話
同 11時～法要
法要終了後おとき

旅行へお誘い

10月19日、20日の日程で能登の總持寺祖院方面に行きます。現在の總持寺が明治44年(1911)に鶴見へ移転した後、別院格として残されたお寺です。總持寺二祖・峨山禅師は羽咋の永光寺を兼務され、片道約70^分の道のりを毎日往来されたという伝説があります。その道は現在も峨山道として残っており、永光寺ともども祖院拝登の折に足を延ばしたいと思います。別紙案内をご覧ください。

配線改修おこなう

花栄寺の庫裡が竣工したのは昭和2年、本堂は1823年の建築です。近年になり何回かのリフォームを繰り返してきましたが、本堂と庫裡南側の天井裏はほとんど手が加えられていません。配線も昔のまま碍子が使われていました。このたび、漏電対策として本堂と庫裡の配線を新しいものに取り換えました。日に当たらない部分ですが、しっかりと目を光らせてゆきたいものです。



ハクビシン禍

ある朝本堂にいますと、天井裏から水が滴ってきます。折しも雨。屋根は葺き替えてあるから変だな、と思って濡れているところまで行くと、獣の尿臭がします。どうも、招かれざる客がいるようです。居るのは構わないのですが、尿や糞にはお手上げです。お立ち退きいただくべく対策を講じております。